

鶴岡NEWS

鶴岡でスモールビジネスに挑戦！
鶴岡マイプロに出会う旅

「都会で身につけたスキルを地元で活かしたい」「本業以外の小さななりわいを見つけたい」「鶴岡の人と一緒に何かをしたい」。そんな要望に応じて鶴岡市が主催する企画が「鶴岡マイプロに出会う旅」。マイプロとはマイプロジェクトのこと。鶴岡にUターンを検討している人を対象に参加者を募集している。

8月1日(土)	オリエンテーション(東京)
8月14日(金)	1DAYサマースクール(鶴岡)
8月29日(土)	マイプロ作成WorkShop(東京)
10月10日(土)～12日(月・祝)	マイプロ合宿(鶴岡)
11月21日(土)	マイプロ相談会(鶴岡)
12月19日(土)	マイプロ報告会(東京)

参加費 9000円(鶴岡での懇親会2回分)
http://new.mirailab.info/mypro/tsuruoka.html



鶴岡では、自分の興味と社会的なテーマをつなげて小さな起業を考える人が集まり、情報交換と起業実現を目指す「鶴岡ナリワイプロジェクト」がスタート。「マイプロ」企画とコラボレーションする。

＼ 鶴岡でネットワークをつくりましょう！

◎鶴岡ナリワイプロジェクト・チームリーダー 井東敬子さん

「アイデアは受け入れられる?」「あのの人に会ってみたい」。マイプロではさまざまなお悩みに答えます。地元の仲間、市役所や講師など幅広いネットワークからは、Uターンへの多くの情報も得られるはずです。



鶴岡への移住に関するお問い合わせは
鶴岡市企画部地域振興課

◎専門員 前田哲佳さん

◎移住コーディネーター 俵谷敦子さん

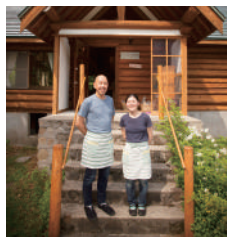
住まい、仕事、子育てなどUターン実現に必要な情報をお知らせして、ご相談に応じます。ぜひ一度ご連絡ください。

☎0235-25-2111

私たちがサポートします！



毎月開催！山形の今がわかる連続セミナー



私が移住体験談をお話します！



竹村純二さん、幸子さん夫妻。

鶴岡市内から眺める月山。

山形暮らしに関するご相談&セミナー会場は…

やまがたハッピーライフ情報センター

場所：東京都千代田区有楽町2-10-1
アクセス：JR有楽町駅隣、東京交通会館5階
(認定NPO法人 ふるさと回帰支援センター内)

☎03-6269-9533

FAX03-6269-9534

e-mail:yamagata-iju@royal.ocn.ne.jp

受け付け時間：

火曜～金曜12:00～18:00、土曜・日曜10:00～18:00



JR有楽町駅・有楽町線有楽町駅地下直結D8出口



風の森のログハウスカフェ「オルファ」。静かな雰囲気は鶴岡をはじめ、広く県内に好評を得ている。



カフェではランチも人気。庄内豚を使った森のカツレツは1100円。「できるだけ地元産減農薬の食材を選んでいます」。



オルファはオールファミリーの略。すべての家族が平和でありますようにと願いを込めてのおもてなし。

れ、知り合う前の純二さんも訪れていた。純二さんは言う。「鶴岡は山の文化や、食、子育てなど、関心を持つ人同士の集まりが活発。毎週のように参加してみたいイベントがあります」地域には五穀豊穡を願う信仰と結び付いた、豊かな農と食と

芸能の文化が受け継がれている。だだちや豆や温海(あつみ)かぶなど、在来作物は約50種類。鶴岡市は日本ですべてユネスコの食文化創造都市にも認定された。「地域の先人たちの知恵を子どもたちに伝えたい。そんな仕事や活動もしていきたいですね」

やまがたハッピーライフカフェ

のびのび庄内
いなか暮らしセミナー

7月12日(日)
13:00～15:00

山形県が都内で開催する年10回の山形暮らしセミナー。3回目は庄内地域からの発信で、会場では鶴岡市をはじめ庄内の各市町村の担当者のほか、先輩移住者として竹村純二さんからも直接話を聞ける。移住のコスト、空き家や仕事の実情、地域の人脈のつくり方、冬の生活など記事では紹介しきれなかった、ざっくばらんな質問にももちろん対応。少しでも興味があればぜひ足を運んでみてほしい。

今後の開催予定：8月2日(日)、9月6日(日)

ご相談はこちらにもどうぞ！

すまいる山形暮らし案内所

(山形県市町村課内)

〒990-8570 山形県山形市松波2-8-1

☎023-630-3083

FAX023-630-2130

e-mail:yshichoson@pref.yamagata.jp

山形暮らし 検索

http://www.pref.yamagata.jp/ylife/



兵庫県芦屋市から
2013年12月に移住

竹村純二さん(47歳)
幸子さん(34歳) 実風結ちゃん(1歳)

敷地にはさまざまな果樹が植えられていた。「手入れは大変ですが、子どもと一緒に楽しめそうです」。

関西を拠点に、純二さんはイベントディレクター、幸子さんは飲食関連の仕事に携わってきた。移住後はカフェをオープンするとともに、地域に根ざした新たな仕事を模索中。

五穀豊穡を願う文化を
子どもたちに伝えたい

「20代の1年間、日本中を旅しました。思い出のある多くの場所から鶴岡を選んだ理由は、文化的な魅力と、縁です」竹村純二さんは妻の幸子さんと2013年12月に兵庫県芦屋市から鶴岡市に移住した。純二さんの仕事は舞台やイベントの企画演出。2012年には鶴岡で開かれた出羽三山のシンポジウムで、舞台制作にもかかわった。羽黒山、湯殿山、月山の出羽三山は修験道の霊場。五重塔の前で、山伏の神楽「番楽」と共演した音楽家の演出を担当し



夫妻の家は集落に隣接する丘の上に建つ。もとは山形市に住む人の別荘だったそう。面積は約1100坪。



庭の木の下にバーベキュー小屋が。中には炉が設置されていた。「どう使おうか思案中です」。



景色を眺める露天風呂。「ゆっくり入る余裕はまだないですね。夏は子どものプールにしようかな」。

た。「山の文化に惹かれて、出羽三山は以前から何度も訪ねていました。信仰の精神を受け継いできたのが山麓の町、鶴岡です」その鶴岡で中学生まで過ごしたのは幸子さん。高校は新潟、その後関西に移って純二さんとの出会い、先代から譲り受けた居酒屋を切り盛りしていた。経営は順調だったが忙しくてからだを壊すほど。子どもを授かったのを機に3年続けた店を仲間譲り、両親が暮らす故郷、鶴岡を新しい家族の拠点に決めた。「子育てでは、つつましくても、家族で笑って過ごせる暮らしを大切にしたいと思いました」

当初の住まいは便利な市街のアパート。その後、情報を集め、丘の上の中古物件を見つけた。「イメージどおりの場所でしたが、除雪や子どもたちの学校などが、心配もあったので近所を訪ねたんです。『まあ、上がって上がつて』と親身に聞いていただいた。それが決め手になりました」幸子さんは車で40分離れた実家の近くで昨夏、カフェ「オルファ」を開いた。お父さんが27年前に山の木を伐り自分で建てたログハウス。以前は鶴岡に集う多くの人の拠点として使わ

国宝の羽黒山五重塔。平将門の創建と伝えられ、南北朝時代に再建された。

探し物が
きつと
見つかる

【注目エリア編】

出羽三山の歴史と文化薫る鶴岡でカフェ開業

山形県鶴岡市は、日本海から庄内平野を経て出羽三山につながる、山海の恵みたっぷりの場所。行政のバックアップも受けて地域内の交流も活発に行われている。自然がもたらす豊かな文化に惹かれて移住した夫妻に魅力を聞いた。

山形県

鶴岡市

アクセス

新潟駅から羽越本線鶴岡駅まで特急で約1時間50分。東北自動車道村田JCTより山形自動車道鶴岡ICまで約2時間。庄内空港より車で約25分。

